



# くりしま

## 《本園の教育目標》

- 元気がある ○自分のことは自分でする
- 仲良く遊ぶ ○ものごとに興味・関心をもつ
- 思ったことを話し、人の話を聞く
- 体験や考えに感動する ○工夫して表現する

《栗島幼稚園ホームページ》

栗島幼稚園

検索

《Instagram》

kurishima1955

## 『新時代の子育て』

園長 矢田 泰久

園周辺では平穩に2025年度(令和7年度)を迎えられ感謝です。新入園児の皆さんには「ご入園おめでとうございます」、在園児の皆さんには「ご進級おめでとうございます」と心からお祝い申し上げます。園での「新しいお友達や先生と出会い」「新しいものや事との出会い」を通じて、皆さんの活動が恵み豊かになりますことをお祈り申し上げます。



<園庭の桜 2025 4/13/>

さて、新時代に入り、子育てもデジタル技術の急速な進化とともに大きく変化しています。スマートフォン、タブレットなど、子どもたちは幼少期からデジタル環境に囲まれています。このような環境の中で、子どもたちの健全な成長を促すためには、子どもたちが生涯にわたって自律的にデジタル技術と付き合えるよう適切に指導助言し、見守り続けることが重要です。

具体的にはスクリーンタイムの管理です。内閣府のインターネット利用環境実態調査では、2歳～5歳児の5%が自分専用のスマホを持っていて、文科省の学校保健統計調査では裸眼視力1.0未満の5歳児の割合が年々増加しています。デジタルデバイスの過剰使用は視力の低下だけでなく、運動不足、睡眠障害、注意力の低下などを引き起こす可能性があります。

世界保健機関(WHO)は、2歳以下の子どもにはスクリーンを避け、2～5歳は1日1時間以内、6歳以上は保護者の管理のもとでバランスを考えることが勧められています。禁止ではないが制限が大切であることを子ども自身にも理解させること、例えば「食事中はデバイスを使わない」「寝る1時間前にはスクリーンを見ない」といった一貫性のあるルールを家族で設定し運用することが大切です。

米国で両親が近視であっても1日2時間超の外遊びをする子どもはしない子に比べ、近視の発症率が3分の1以下に減ったという報告(近視でない6歳～14歳の子どもを対象に12年間の追跡調査)があります。自然の中で遊ぶことで、あらゆる感覚機能を使った学びや運動の機会を増やせます。

デジタル技術は、正しく使えば子どもの成長に大きなメリットをもたらします。しかし、過度な依存や不適切な利用は、発達に悪影響を及ぼす可能性があります。そのために、リアルな体験(アナログ的ふれあい)として外遊びやアウトドア活動を積極的に取り入れることなど、バランスよく取り入れることは健全な成長にとって不可欠です。



<園庭からみたサクラ>

今年度も本園では教職員一丸となって心身共に健やかで感情豊かな幼児の育成に向け、保護者・地域や関係する皆様のご理解とご協力を仰ぎながら、園の教育計画を実践してまいります。何とぞ本年もよろしく願いいたします。